

バッハ作曲 マタイ受難曲

85分 ← 第1部

場	分	内容	曲No.	構成	聴きどころ	
1	プロローグ	過ぎ越しの祭りの後、イエスが逮捕される予告場面	1 2	イエス「人の子は、十字架につけられるために引き渡される」		
			3	賛美歌(ヘールマン).....「イエスよ、どんな罪を犯したのですか」		
2	策略	祭司長・長老達のイエス逮捕の相談	4 5	福音史家「カヤバという大祭司の中庭で、イエス逮捕の相談をした」		
3	ベタニヤの塗油	ベタニヤで、ひとりの女が、高価な香油をイエスの頭に注いだ(王として認めるという意味)	6 8	イエス「自分の葬式の用意のためなので、良いことである。」と弟子を諭す	マグダラのマリアと重なるひとりの女のその気持ちに対する悲しみ	
			9 10	アルト歌手のレチタチーヴォとアリア「私の涙もあなたに、ふり注ぎます」		
4	ユダの裏切り	弟子のユダが、銀貨30枚で、祭司長にイエスを引き渡す旨約束。	11	ユダ「彼をあなた方に引き渡せば、いくらくれますか？」	裏切りに対して悲しみの歌を歌う。	
			12	ソプラノ歌手のアリア「さあ血にまみれるが良い、愛する心よ」		
5	最後の晩餐	食事の準備ができたところで、イエスが裏切りの予告をする	13 15	イエス「あなた方のうちの一人が、私を裏切ろうとしている。」	人間すべてのの心の中にひそむ弱さに対して、暗い気分させる	
			16	賛美歌(イザーク).....「罰せられるべきは、私です」		
		10	イエスが、パンとワインの意味、つまり最後の晩餐の意味の説明をする	17	イエス「パンは私の体である、杯は多くの人のために流す私の契約の血である。」	悲しみは、来世の喜びに繋がるという意味で快活な歌に変わっていく
				18 19	ソプラノ歌手のレチタチーボとアリア「私はこの心をあなたに捧げます」	
6	オリーブ山	イエスが、団体行動が乱れる、と予告する	20	イエスが「今夜、我々のまとまりがなくなるであろう」		
			21	賛美歌(ゲルハルト).....「私を、認めて下さい、私の守り人よ」		
		弟子達の口だけの誓い	22	イエス「鶏が鳴く前に、弟子のペテロは三度私を知らないと言うであろう。」		
			23	賛美歌(ハスラー).....「私はあなたと一緒にいます」		
7	ゲッセマネでの祈り	間近に迫った死を恐れるイエスの苦しみと祈り	24	イエス「私は悲しみの余り泣きそうである。あなた方は、私の祈りの最中寝ないように」	人間的な苦悩に悩むイエスを、オーボエと合唱が優しく包む。	
			25 26	テノール歌手と合唱のレチタチーヴォとアリア「あなたの苦しみは、私が犯した罪のせいです。」		
		7	主への忠誠を独白する	27	イエス「私の思いのままではなく、御心のままになさして下さい」	ひれ伏すように御心に従うイエスの決意を、音楽が支援する。
				28 29	バス歌手のレチタチーヴォとアリア「杯にこの世の罪が注ぎ込まれる」	
		3	無神経に眠っている弟子達への怒り。	30	イエス「この杯を飲むほかに道がないのなら、御心に従います」	お説教
				31	賛美歌(アルブレヒト).....「神は、信ずる者を必ず助ける」	
8	逮捕の場面	熟睡している弟子達を起こした後、ユダのイエスに対する接吻を合図に逮捕される。	32	イエス「見よ、私を裏切る者が近づいてきた」	逮捕の情景を悲しみを込めて歌い、聴衆の気持ちを代弁する合唱がからむ	
			33	ソプラノ歌手とアルト歌手のデュエット「放せ、やめろ、縛るな！！」		
		10	予言者達を書いたことを、成就するため逮捕された	34	福音史家「その時、弟子達は、皆イエスを見捨てて逃げ去った。」	最後にコーラル合唱で、締めくくる
				35	賛美歌(ハイデン).....「おお人よ、あなたの罪の大きさを嘆け」	

111分 ← 第2部

場	分	内容	曲No.	構成	聴きどころ		
1	プロローグ	4	逮捕されたイエスを失って茫然自失	36	アルト歌手のアリア「我が友イエスはどこへ連れ去られたのか？」	シオンの娘の嘆きを代弁する音楽	
2	大祭司カヤパの審問	8	有罪の証拠が見つからない	37	福音史家「死刑にする不利な証拠がなにも見つからない」		
				38	賛美歌……………「私を、悪からお守り下さい」		
			39	福音史家「しかし、イエスは黙っておられた」			
		4	有罪の場面	40	41	テノール歌手と合唱のレチタティーヴォとアリア「偽りの舌が我を刺すが、忍べ忍べ」	
				42	43	イエス「まもなく私が、力あるものの右に座し、天の雲に乗って来るのを見るであろう」	興奮した群衆に対して、主への優しい同情を含ませ諭すようなコーラル
			44	賛美歌(イザーク)……………「あなたは、私たちと違い悪人ではありません」			
3	ペテロの否認	12	群衆からイエスと一緒にだと言われペテロは三回否認したが、イエスの予言を思い出し、外に出て激しく泣いた。	45	46	ペテロ「そんな人は知らない！」	涙のしたたりを具象化するピッチカートに支えられ、ヴァイオリン独奏付きで歌う。
				47	アルト歌手のアリア「我が神よ哀れみたまえ」		
				48	賛美歌(リスト)……………「私の罪は否定しません、しかし、あなたの恵みと恩寵が遙かに大きい」	人間の弱さの痛みが、深い慰めに変化	
4	ユダの最後	5	裏切りを後悔したユダは、苦痛に耐えられず、銀貨を投げ捨てながら首をつって死んだ。	49	50	福音史家「そこで彼は、銀貨を聖所に投げ込んで行き、首をつって死んだ、…」	ユダを帰ってきた放蕩息子とみて、明るい音楽により裏切りの罪から彼を救済する。ヴァイオリンはコインを投げ捨てる音を模している
				51	バス歌手のアリア「若者(ユダ)は、礼金を君たちの足下に投げつけてるではないか！」		
5	総督ピラトの審問	15	ローマ総督ピラトのイエスとバラバのどちらを釈放するかという問いに対して、住民は、「バラバ」と答え「十字架に付けろ」と。ピラトは、気乗りしなかった。	52	総督ピラト「あんなに次々と不利な証言があるのに、君には聞こえないのか？」	緊迫した場面	
				53	賛美歌(ゲルハルト)……………「イエスの道は、主の保護に委ねなさい」		
				54	ピラト「二人のうちどちらを許して欲しいか」・群衆「バラバ」・群衆「十字架につけよ」		
				55	賛美歌(ヘルマン)……………「なんと不思議な罪なのだろうか」		
				56	総督ピラト「あの人は、いったい、どんな悪事をしたのか？」	前後の残虐な情景から際だった対照をなして、清らかで慈しみに富んだアリア	
				57	58		ソプラノ歌手のレチタティーボとアリア「愛ゆえに我が救い主は死のうとするのです」
		11	ユダヤ人が、イエス絞首刑の責任を取るといので、ピラトは諦めて、十字架に付けるべく兵士に引き渡した	59	ピラト「イエスの血について、私に責任はない」群衆「その血の責任は、我々と我々の子孫の上にかかっても良い。」	むち打ちを模した弦楽器の刻みをバックに歌い始めるが、優しさに満ちている音楽	
4	総督邸でイエスを裸にし、なぶりものにする場面	60	61	アルト歌手のレチタティーボとアリア「涙で足りなければ心臓を捧げよう、私は心臓で慈しみの血潮を受け取るのだ」			
		62	福音史家「兵士達は、イエスのつばきをかけ、萱の棒で頭をたたいた」	有名な受難コーラルが最も高揚する場面			
			63		賛美歌(ゲルハルト)……………「おお、血と傷、苦痛と嘲笑でいっぱい御頭」		
6	ゴルゴダの丘	8	十字架は、シモンというクレネ人に負わせ、イエスは途中からかわれながら、ゴルゴダの丘に向かう。	64	福音史家「兵士達は、イエスのつばきをかけ、萱の棒で頭をたたいた」	よろめきを意味するフルートの伴奏から始まる。後半は、静かな憧れの感情が出ている。	
				65	66		バス歌手のレチタティーボとアリア「来たれ、甘き十字架よ、私が手助けします」
		10		67	68	群衆「もし神の子なら自分を救い、十字架から降りてこい」	十字架に貼り付けられたイエスに対する愛情を示す場面
				69	70	アルト歌手のレチタティーボとアリア「みよ、私たちを抱くために、手を差し延べられた」	
7	3時	9	イエスは、昼の十二時から暗くなり三時に息を引き取った。その後地震等起こり、神の子と認識する。ピラトは、家族の申し出により遺体を引き渡した。	71	イエス「我が神、我が神、どうして私をお見捨てになったのですか」	息を引取った後の受難コーラルの静けさ。地震等の出来事を見た群衆の感動。	
				72	賛美歌(ゲルハルト)……………「あなたの苦難によって、私の恐れを救って下さい。」		
				73	群衆「真にこの人は神の子であった。」		
8	遺体の引き取りと埋葬	9	納骨されたが、復活したというデマが出ないよう、ピラトは、警備を強化した。	74	75	バス歌手のレチタティーボとアリア「我が心よ己を清めよ」	力を抜いて受難曲の終了を待つ。
		12		76	78	合唱「我がイエスよ、お休みなさい。」	